

令和3年度 美術館自主事業(企画展)実績一覧

No.	事業名	会期・会場	内容	鑑賞者数
1	びじゅチューン！× OPAM なりきり美術館	2021年2月19日(金) ～5月9日(日) アトリウム、展示室B・コレクション展示室	アーティストの井上涼さんが国内外の有名な美術作品をテーマに作詞・作曲・アニメ・歌のすべてを手がけたアニメーションNHK Eテレの人気番組「びじゅチューン！」とのコラボレーションによる企画展。「びじゅチューン！」の発想の源となった作品のほか、大分の文化や芸術をより知ることができる機会となるよう、大分の熊野磨崖仏を題材にした「びじゅチューン！」作品「お互い擬態」に加え、富貴寺やケベス祭などの史跡や祭事、大分出身の田能村竹田や福田平八郎、高山辰雄、宇治山哲平、生野祥雲斎などの作品を「びじゅチューン！」作品と関連付けて紹介。 (展示点数 47点)	18,368人
2	佐藤雅晴 尾行ー存在の不在／不在の存在	2021年5月15日(土) ～6月27日(日) 展示室A	大分県臼杵市に生まれた佐藤雅晴(1973-2019)は、日常風景をビデオカメラで撮影した後、パソコン上でペンツールを用いて慎重にトレースする「ロスコープ」技法でアニメーションや平面の作品を創作。観る者に、現前に映る事物の実在感とともに、不確かさや儚さなどを感じさせる独特の世界観により、国内外で高い評価を受けるなか、45歳の若さで惜しまれながら亡くなった。本展では、代表作の《Calling》《東京尾行》《福島尾行》など、佐藤の活動の全貌を紹介した。 (展示点数 53点)	5,399人
3	サンリオ展 ～ニッポンのクワイ文化60年史～	2021年7月10日(土) ～9月5日(日) 展示室A	ハローキティやマイメロディなど、450以上のキャラクターを生み出したサンリオの歴史は、世界からも注目されている「クワイ文化」の歴史そのものといっても過言ではない。本展では、初公開のキャラクター原画や、当時のグッズや出版物のほか、サンリオショップのジオラマや制作室の再現、さらにはキャラクターをテーマとしたアート作品などを含めて展示します。「クワイ」を生み出すサンリオの成長と発展、その独創的なビジョンを紹介した。 (展示点数 約400点)	31,872人
4	生誕110年記念 糸園和三郎展 ～魂の祈り、沈黙のメッセージ～	2021年9月18日(土) ～10月31日(日) コレクション展示室	生誕110年を記念して開催する本展では、初期から戦後の社会性の強い作品群、さらに詩情とヒューマンイズムあふれる晩年へと変遷する糸園の画業を代表作により振り返るとともに、作品の構想が描かれたスケッチブックや実際に使われた画材などの関連資料も展示。常に社会とそこに生きる人々を静かに見つめ、絵筆を持ち続けた糸園の真摯なメッセージを時代を超え伝えた。 (展示点数 80点)	5,378人
5	相田みつを全貌展 ～いのちの尊さ ことばのチカラ～	2021年11月26日(金) ～2022年1月23日(日) 展示室B	栃木県足利市に生まれた相田みつを(1924-1991)は、戦中戦後の動乱期に書の世界に身を投じ、「いのち」の尊さを見つめながら、独特の文字で自らの言葉を書く作風を確立した。1984年の作品集『にんげんだもの』がベストセラーとなり、広い世代の共感と感動を呼び起こした。本展では、生きる勇気を与えてくれる相田みつをの世界を、代表作をはじめ初公開作品など約130点と貴重な資料を通して紹介した。 (展示点数 133点)	17,496人
6	GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？	2021年12月4日(土) ～2022年1月23日(日) 展示室A	横尾忠則(1936年生まれ)は、1960年代初頭よりグラフィック・デザイナー、イラストレーターとして活動を開始し、日本の土俗的なモチーフとポップ・アートの感覚を融合させた独自の表現で注目されました。大分初の大規模個展として、絵画を中心に、グラフィックの代表作を加えた豊富な出品作品によって横尾忠則の生涯の展開を辿りながら、その芸術の特性を明らかにした。 (展示点数 495点)	8,672人
7	庵野秀明展	2022年2月14日(月) ～4月3日(日) 展示室A	総監督を務めた最新作『シン・エヴァンゲリオン劇場版』が、興行収入100億円を突破し、制作中の新作映画の公開も待ち遠しい庵野秀明。本展は、アニメーター時代に参加した過去作品や、監督、プロデューサーとして活躍する最新の仕事までを網羅し、創作活動の秘密に迫る。アマチュア時代から最新作まで、膨大な資料を大公開した。 (展示点数 約1,500点)	31,759人